

人口ビジョンの推計について

人口の動向

(1) 総人口・年齢階層別人口

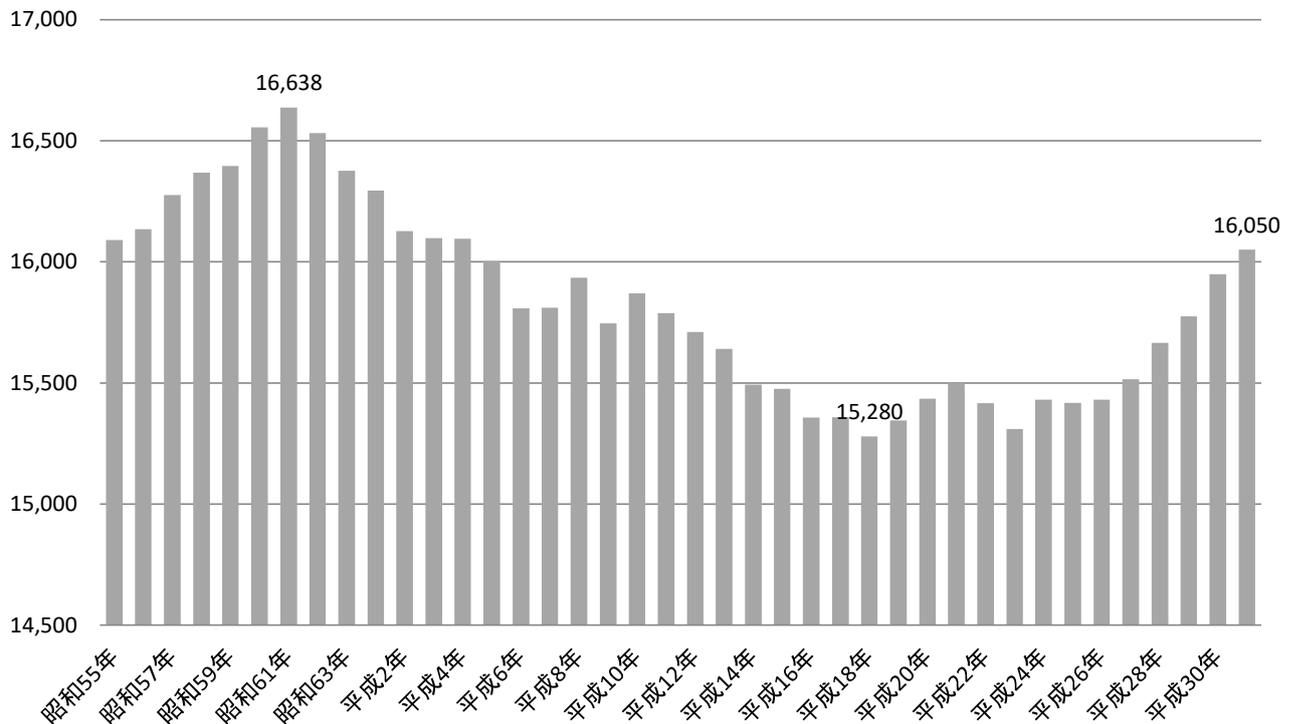
本町の総人口は、図表2のとおり昭和61年（1986年）の16,638人を頂点に減少傾向にあったが、近年増加傾向に転じ、令和元年（2019年）9月末時点で、16,050人である。

年齢階層別にみると、図表3、4のとおり年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は近年増加傾向にある一方、高齢者人口（65歳以上）については、ほぼ横ばいで推移している。

本町の年少人口（0歳以上14歳未満）がそれぞれ総人口に占める割合は、図表5のとおり全国や京都府の数値と比較するとやや大きくなっており、年少人口の構成比は全国、京都府で減少している一方、本町では増加している。

図表7における本町の年少人口、生産年齢人口、高齢者人口における比率の推移では、生産年齢人口は令和2年（2020年）以降微減傾向を示しているが、年少人口、高齢者人口は、ほぼ横ばいの傾向を示している。

図表2 大山崎町の総人口の推移



資料：住民基本台帳（各年9月末日）

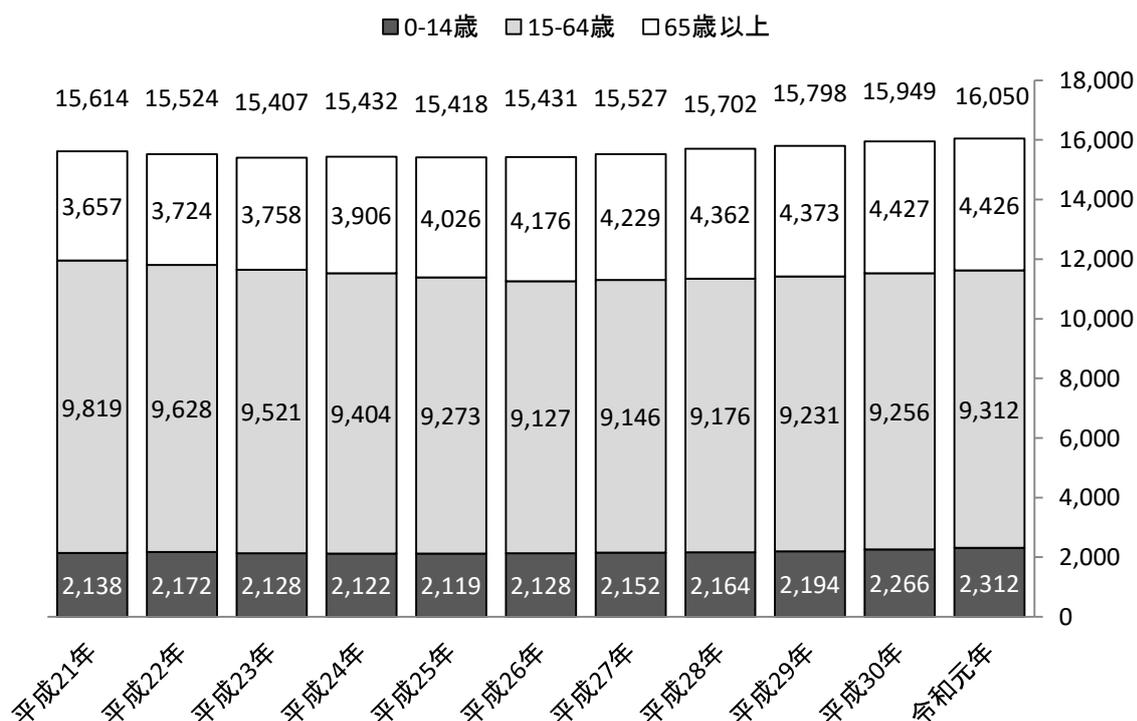
図表3 大山崎町年齢階層別人口・高齢化率の推移

(単位:人、%)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
総人口	15,614	15,524	15,407	15,432	15,418	15,431	15,527	15,702	15,798	15,949	16,050
0-14歳	2,138	2,172	2,128	2,122	2,119	2,128	2,152	2,164	2,194	2,266	2,312
15-64歳	9,819	9,628	9,521	9,404	9,273	9,127	9,146	9,176	9,231	9,256	9,312
65-74歳	2,105	2,089	2,023	2,092	2,141	2,226	2,241	2,224	2,130	2,098	2,023
75歳以上	1,552	1,635	1,735	1,814	1,885	1,950	1,988	2,138	2,243	2,329	2,403
65歳以上比率	23.4%	24.0%	24.4%	25.3%	26.1%	27.1%	27.2%	27.8%	27.7%	27.8%	27.6%
75歳以上比率	9.9%	10.5%	11.3%	11.8%	12.2%	12.6%	12.8%	13.6%	14.2%	14.6%	15.0%

資料：住民基本台帳（各年9月末日）

図表4 大山崎町年齢3区分別人口の推移



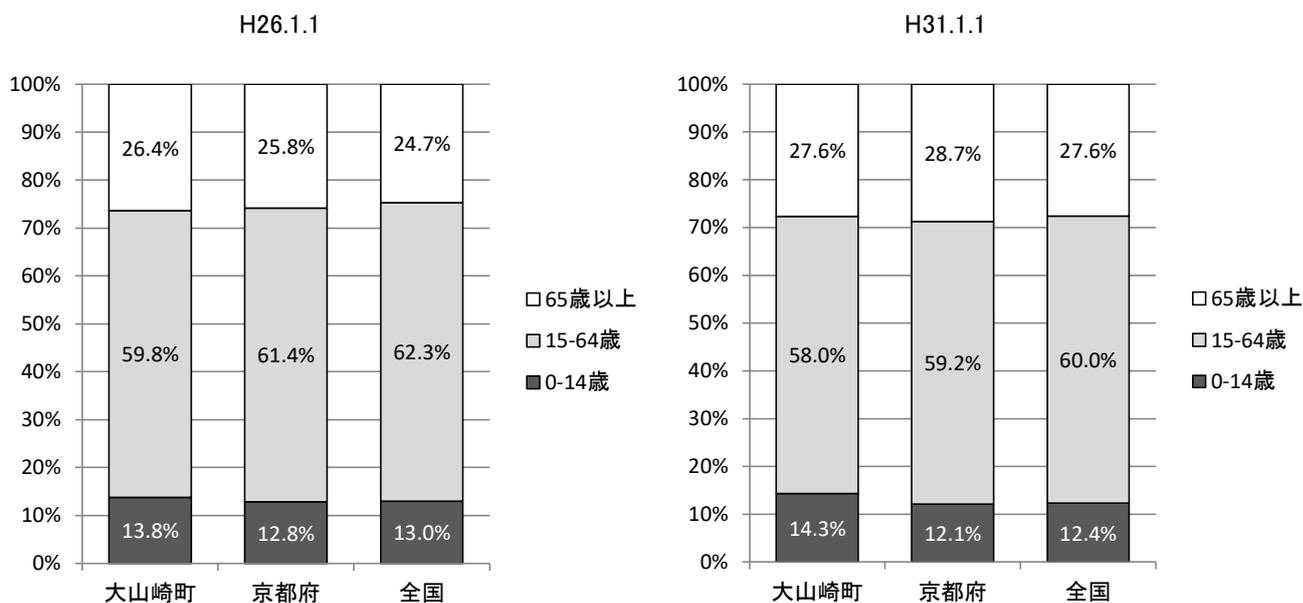
資料：住民基本台帳（各年9月末日）

図5 年齢階層別人口構成比の比較

平成26年1月1日		大山崎町 (人)	京都府 (千人)	全国 (千人)	平成31年1月1日		大山崎町(人)	京都府(千人)	全国(千人)
人口	総人口	15,437	2,586	128,438	人口	総人口	15,991	2,555	127,444
	0-14歳	2,125	330	16,666		0-14歳	2,289	310	15,758
	15-64歳	9,234	1,589	80,051		15-64歳	9,281	1,512	76,500
	65-74歳	2,173	351	16,353		65-74歳	2,075	361	17,403
	75歳以上	1,905	316	15,368		75歳以上	2,346	372	17,782
構成比	0-14歳	13.8%	12.8%	13.0%	構成比	0-14歳	14.3%	12.1%	12.4%
	15-64歳	59.8%	61.4%	62.3%		15-64歳	58.0%	59.2%	60.0%
	65-74歳	14.1%	13.6%	12.7%		65-74歳	13.0%	14.1%	13.7%
	75歳以上	12.3%	12.2%	12.0%		75歳以上	14.7%	14.6%	14.0%
	65歳以上	26.4%	25.8%	24.7%		65歳以上	27.6%	28.7%	27.6%

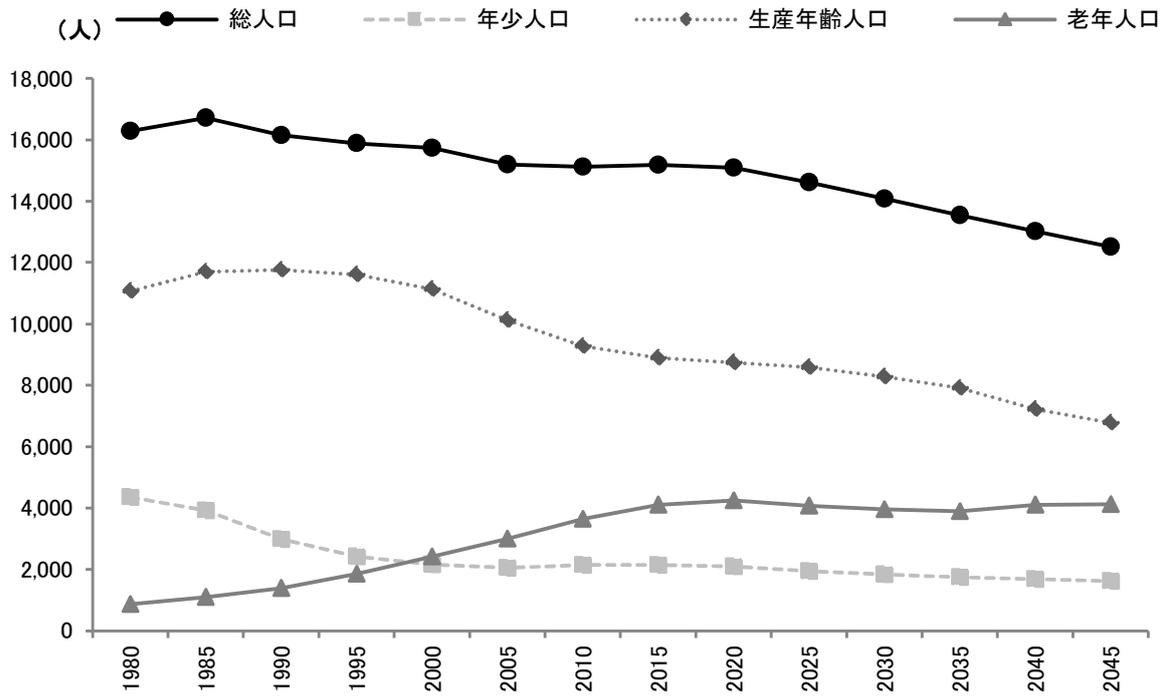
資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

図表6 年齢3区分別人口構成比の比較



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

図表7 年少人口（0-14歳）、生産年齢人口（15-64歳）、高齢者人口（65歳以上）の比率の推移

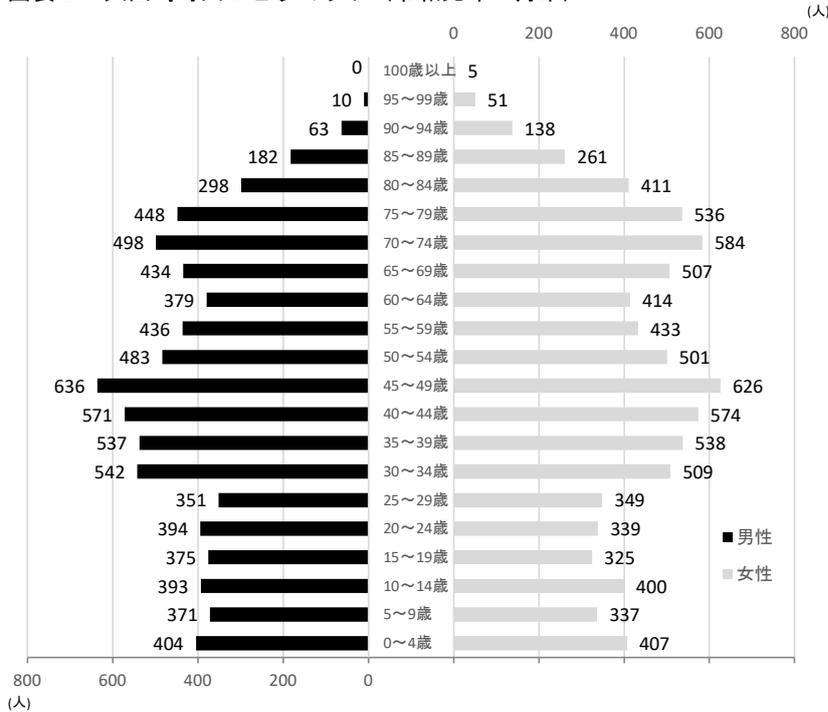


資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

(2) 人口ピラミッド

本町の人口の年齢階層は、男女ともに、45～49歳の階層（いわゆる団塊ジュニア世代）と、70～74歳の階層（いわゆる団塊の世代）の2つの頂点がある構造になっている。5年前と令和元年（2019年）の年齢別人口構成を比較してみると、若い世代、特にファミリー層（30歳代の親と学齢期の子）が多く転入しており、平成21年（2009年）から平成26年（2014年）の推移と比較すると、マイナスであった20歳代でもプラスに転じている。

図表8 大山崎町人口ピラミッド（令和元年9月末）



資料：住民基本台帳

図表9 大山崎町の年齢階層別人口（平成26年と平成21年、令和元年と平成26年の年齢5歳階級の-5歳の差）

年齢階層	平成21年人口	平成21年人口の5歳スライド		H26-H21	平成26年人口	平成26年人口の5歳スライド		令和元年人口	R1-H26
		平成21年人口	平成26年人口			平成26年人口	令和元年人口		
0～4歳	764	-	671	671	671	-	811	811	811
5～9歳	692	764	772	8	772	671	708	708	37
10～14歳	682	692	685	-7	685	772	793	793	21
15～19歳	767	682	713	31	713	685	700	700	15
20～24歳	844	767	681	-86	681	713	733	733	20
25～29歳	944	844	790	-54	790	681	700	700	19
30～34歳	1,105	944	960	16	960	790	1051	1051	261
35～39歳	1,243	1,105	1111	6	1111	960	1075	1075	115
40～44歳	987	1,243	1241	-2	1241	1111	1145	1145	34
45～49歳	916	987	976	-11	976	1241	1262	1262	21
50～54歳	807	916	887	-29	887	976	984	984	8
55～59歳	1,009	807	802	-5	802	887	869	869	-18
60～64歳	1,197	1,009	966	-43	966	802	793	793	-9
65～69歳	1,183	1,197	1139	-58	1139	966	941	941	-25
70～74歳	922	1,183	1087	-96	1087	1139	1082	1082	-57
75～79歳	731	922	838	-84	838	1087	984	984	-103
80～84歳	463	731	589	-142	589	838	709	709	-129
85～89歳	235	463	348	-115	348	589	443	443	-146
90～94歳	90	235	138	-97	138	348	201	201	-147
95～100歳	29	90	31	-59	31	138	61	61	-77
100歳以上	4	33	6	-27	6	37	5	5	-32
計	15,614	15,614	15,431	-183	15,431	15,431	16,050	16,050	619

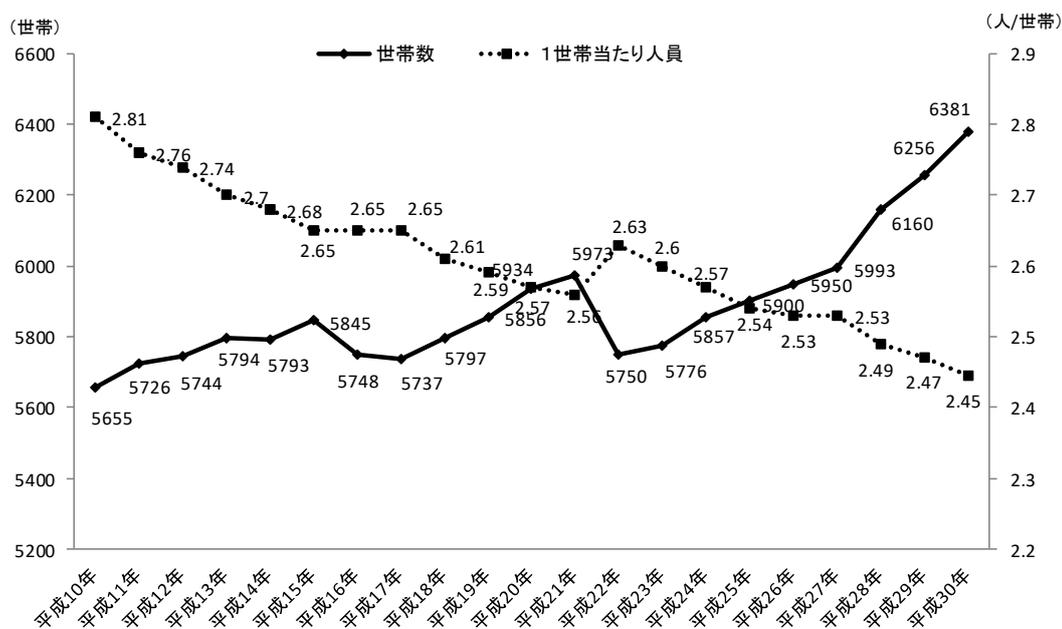
資料：住民基本台帳

(3) 総世帯数の推移

年によりばらつきはあるが、本町の世帯数は概ね増加傾向、一世帯当たり人数は減少傾向にある。

本町の世帯数の伸び（平成27年（2015年）/平成22年（2010年））は、全国や京都府と比較すると、やや小さい。

図表10 大山崎町の総世帯数（左目盛）と一世帯当たり人数（右目盛）の推移



資料：国勢調査・推計人口

図表 1 1 総世帯数の内訳（全国・京都府・大山崎町）

		実数				指数(平成12年=1.000)			
		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
全国	A人口(人)	126,925,843	127,767,994	128,057,352	127,094,745	1.000	1.007	1.009	1.001
	B総世帯数(世帯)	47,062,743	49,566,305	51,950,504	53,448,685	1.000	1.053	1.104	1.136
	B-1 一般世帯	46,782,383	49,062,530	51,842,307	53,331,797	1.000	1.049	1.108	1.140
	B-2 施設等の世帯	101,628	100,299	108,197	116,888	1.000	0.987	1.065	1.150
京都府	A人口(人)	2,644,391	2,647,660	2,636,092	2,610,353	1.000	1.001	0.997	0.987
	B総世帯数(世帯)	1,026,724	1,079,041	1,122,057	1,152,902	1.000	1.051	1.093	1.123
	B-1 一般世帯	1,015,468	1,063,907	1,120,440	1,151,422	1.000	1.048	1.103	1.134
	B-2 施設等の世帯	1,917	1,492	1,617	1,480	1.000	0.778	0.844	0.772
大山崎町	A人口(人)	15,736	15,191	15,121	15,181	1.000	0.965	0.961	0.965
	B総世帯数(世帯)	5,744	5,737	5,750	5,993	1.000	0.999	1.001	1.043
	B-1 一般世帯	5,736	5,733	5,747	5,987	1.000	0.999	1.002	1.044
	B-2 施設等の世帯	2	3	3	78	1.000	1.500	1.500	39.000

資料：国勢調査

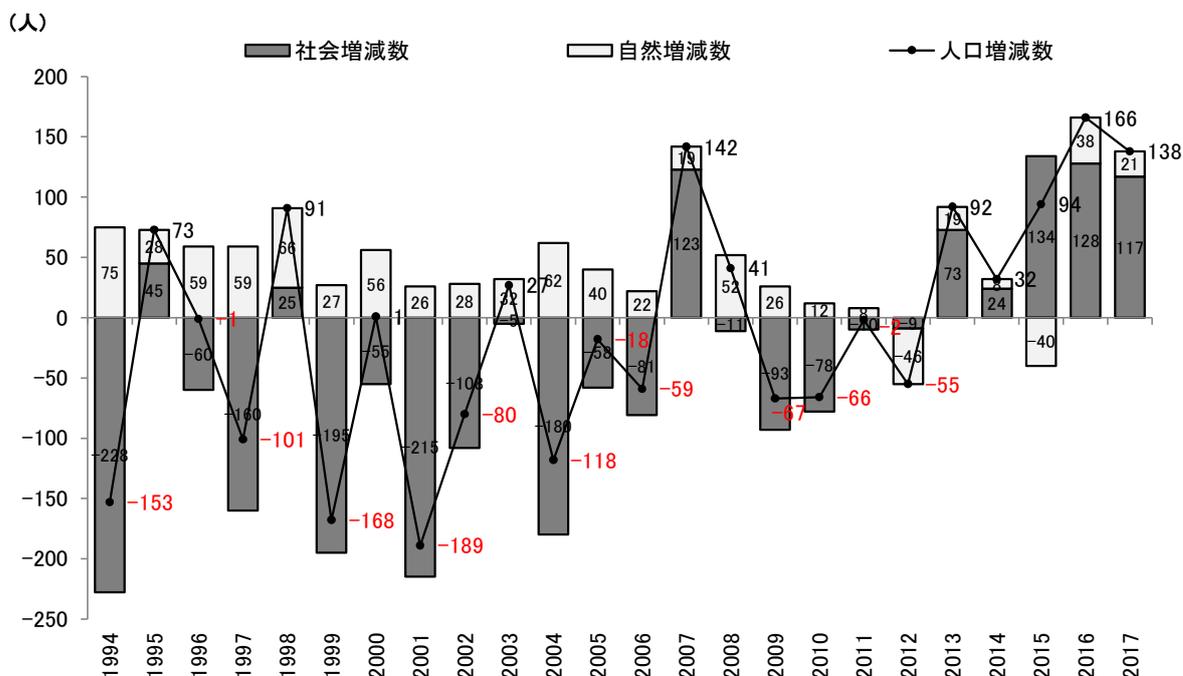
※総世帯数は、世帯の種類「不詳」を含む

(4) 人口動態

自然増減（出生－死亡）は、平成 24 年（2012 年）、平成 27 年（2015 年）を除きプラスで推移している。

社会増減（転入－転出）は、平成 25 年（2013 年）以降プラスが続いており、人口増減数についても平成 25 年（2013 年）以降プラスで推移している。

図表 1 2 大山崎町の自然増減・社会増減の推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」再編加工

【注記】 2012 年までは年度データ、2013 年以降は年次データ。2011 年までは日本人のみ、2012 年以降は外国人を含む数字。

(5) 死亡の原因

「標準化死亡比」とは、年齢構成が異なる集団間（例えば、大山崎町と全国）の死亡傾向を比較する指標として用いられる。標準化死亡比が基準値（100）より大きい場合、その地域の死亡率は、基準となる集団（全国）より高いことを示す。

本町の標準化死亡比をみると、全体としては全国や京都府と比べて低く、「健康なまち」としての特性がある。100 以上を超える死因としては、「大腸の悪性新生物」（男性、女性）、「肝及び肝内胆管の悪性新生物」（男性）、「肺炎」（男性）、「腎不全」（男性）が挙げられる。

図表 1 3 主要死因別標準化死亡比（平成 20～24 年）：全国＝100

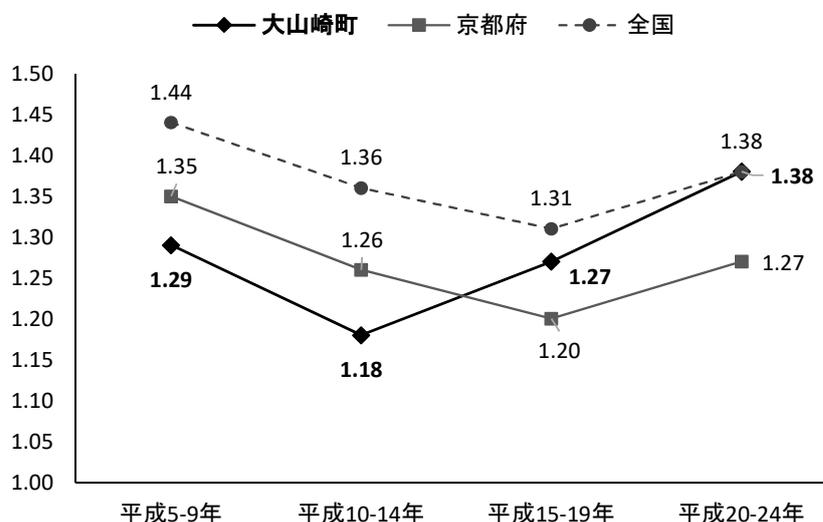
	男 性		女 性	
	大山崎町	京都府	大山崎町	京都府
死亡総数	90.6	96.2	82.5	98.4
悪性新生物	95.0	99.8	94.0	105.1
胃	69.6	99.4	85.1	102.3
大腸	108.5	99.5	177.6	107.2
肝及び肝内胆管	105.5	101.9	…	108.1
気管、気管支及び肺	84.0	107.1	93.7	118.9
心疾患(高血圧性疾患を除く)	95.5	104.1	87.3	106.4
急性心筋梗塞	56.4	73.8	…	79.1
心不全	69.1	88.2	95.9	95.0
脳血管疾患	59.3	83.2	57.4	86.7
脳内出血	71.6	91.2	…	95.0
脳梗塞	54.1	79.5	41.0	85.2
肺炎	101.5	96.8	89.5	95.6
肝疾患	…	80.2	…	88.4
腎不全	154.4	103.5	…	110.7
老衰	90.1	79.4	46.3	82.5
不慮の事故	67.2	69.6	91.0	63.8
自殺	…	89.8	…	93.7

資料：厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

(6) 合計特殊出生率の推移

本町の合計特殊出生率は平成 5 - 9 年（1993 - 1997 年）、平成 10 - 14 年（1998 - 2002 年）は全国・京都府に比べて低い状況であったが、平成 10 - 14 年（1998 - 2002 年）以降は上昇しており、平成 20 - 24 年（2008 - 2012 年）は 1.38 と全国と同水準となっている。

図表 1 4 合計特殊出生率の推移

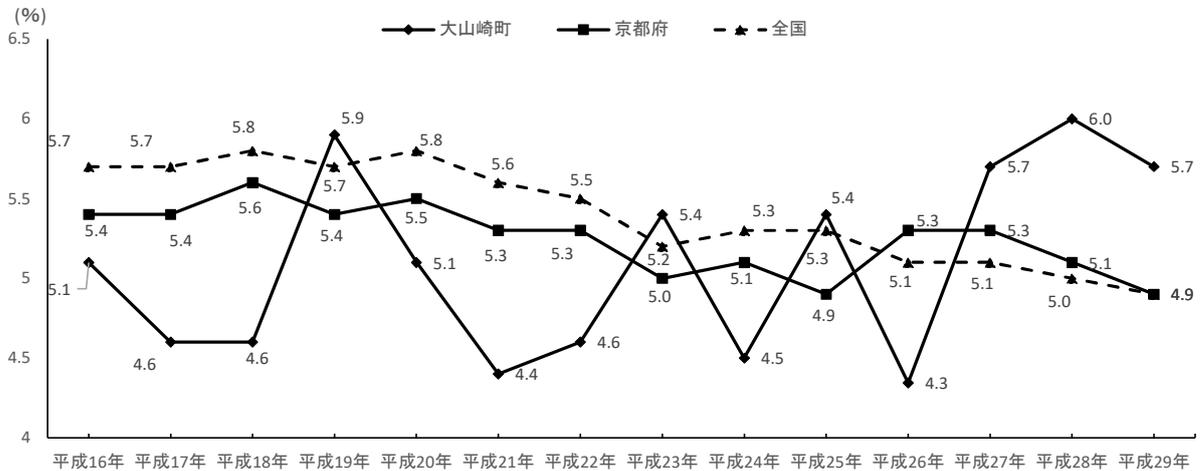


資料：人口動態保健所・市区町村別統計

(7) 婚姻・離婚の状況

本町の婚姻率は、年によりばらつきがあったが、平成27年（2015年）以降、全国、京都府を上回る値で推移している。

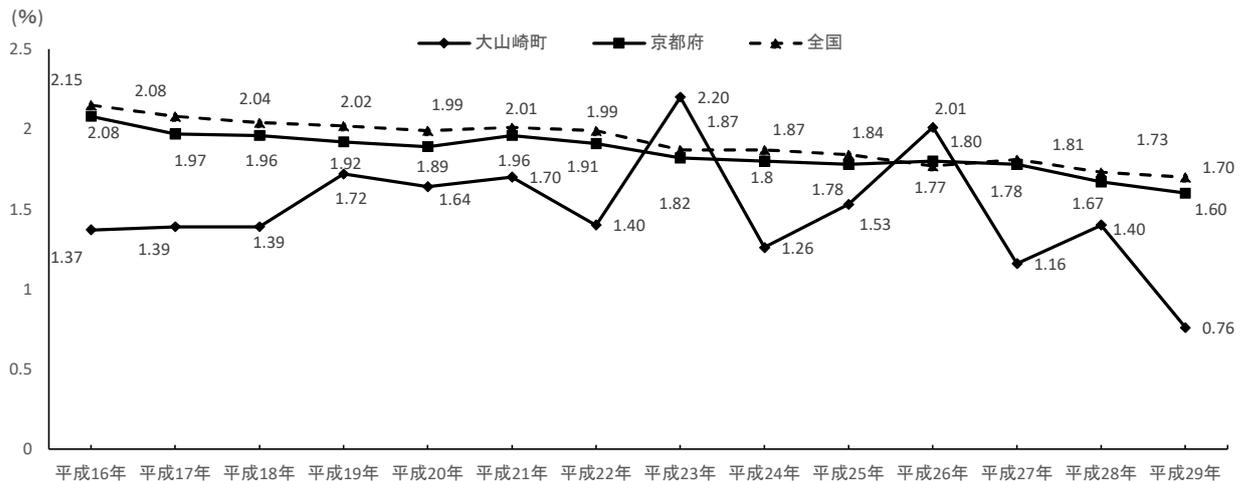
図表15 婚姻率（人口千対）の推移



資料：京都府・全国は人口動態統計、大山崎町は京都府保健福祉統計

本町の離婚率は、平成23年（2011年）、平成26年（2014年）に全国、京都府と比べて高くなっているが、他の年は低く推移している。

図表16 離婚率（人口千対）の推移

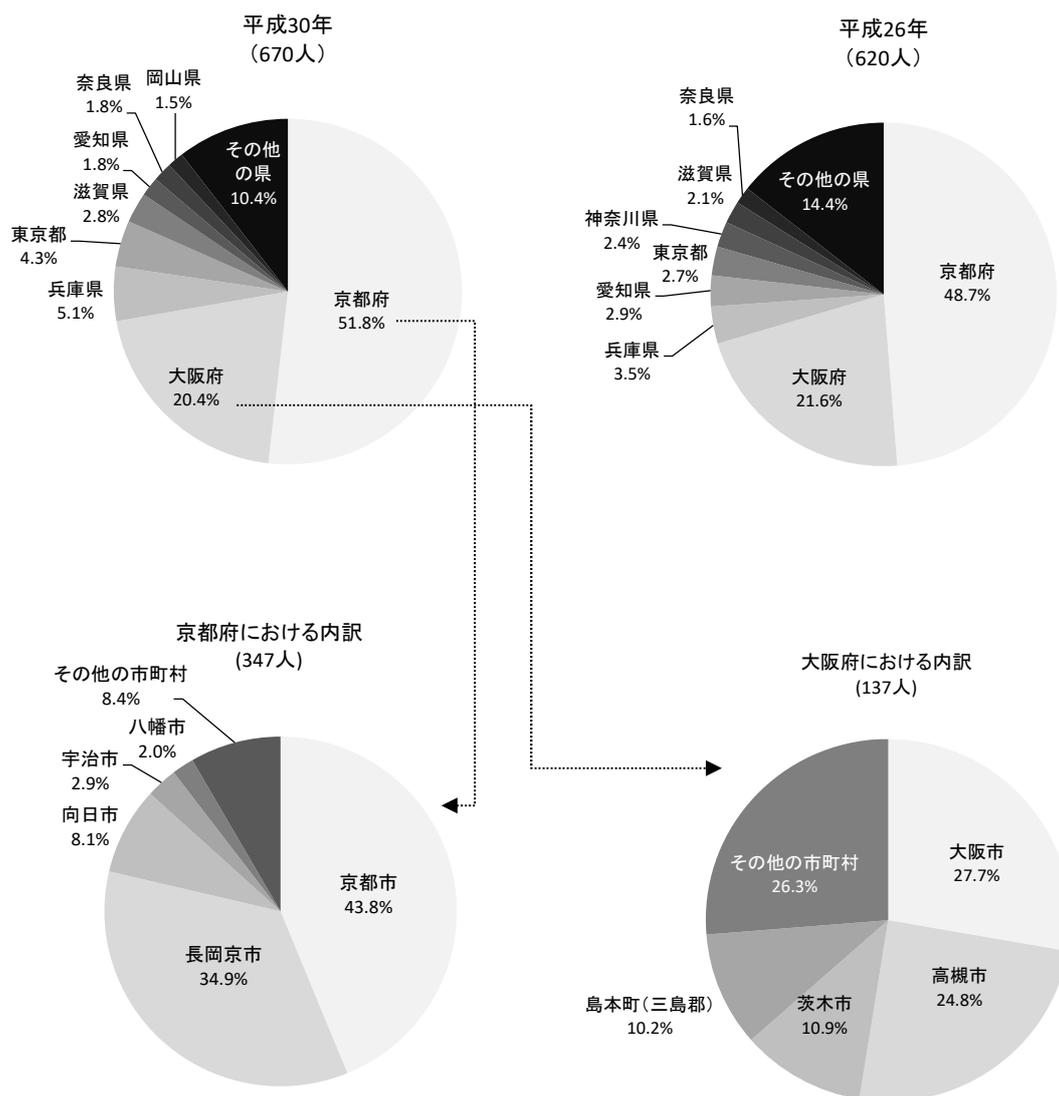


資料：京都府・全国は人口動態統計、大山崎町は京都府保健福祉統計

(8) 転入・転出者

本町への転入者は、京都府、大阪府で約7割を占めている。平成30年（2018年）の転入者において、京都府の内訳では、京都市が43.8%で最も多く、長岡京市が34.9%となっており、平成26年（2014年）調査時と同様であったが、長岡京市（平成26年は26.8%）からの転入者の割合が増加している。大阪府の内訳では、大阪市が27.7%で最も多く、次いで高槻市が24.8%と比較的割合が高くなっている。

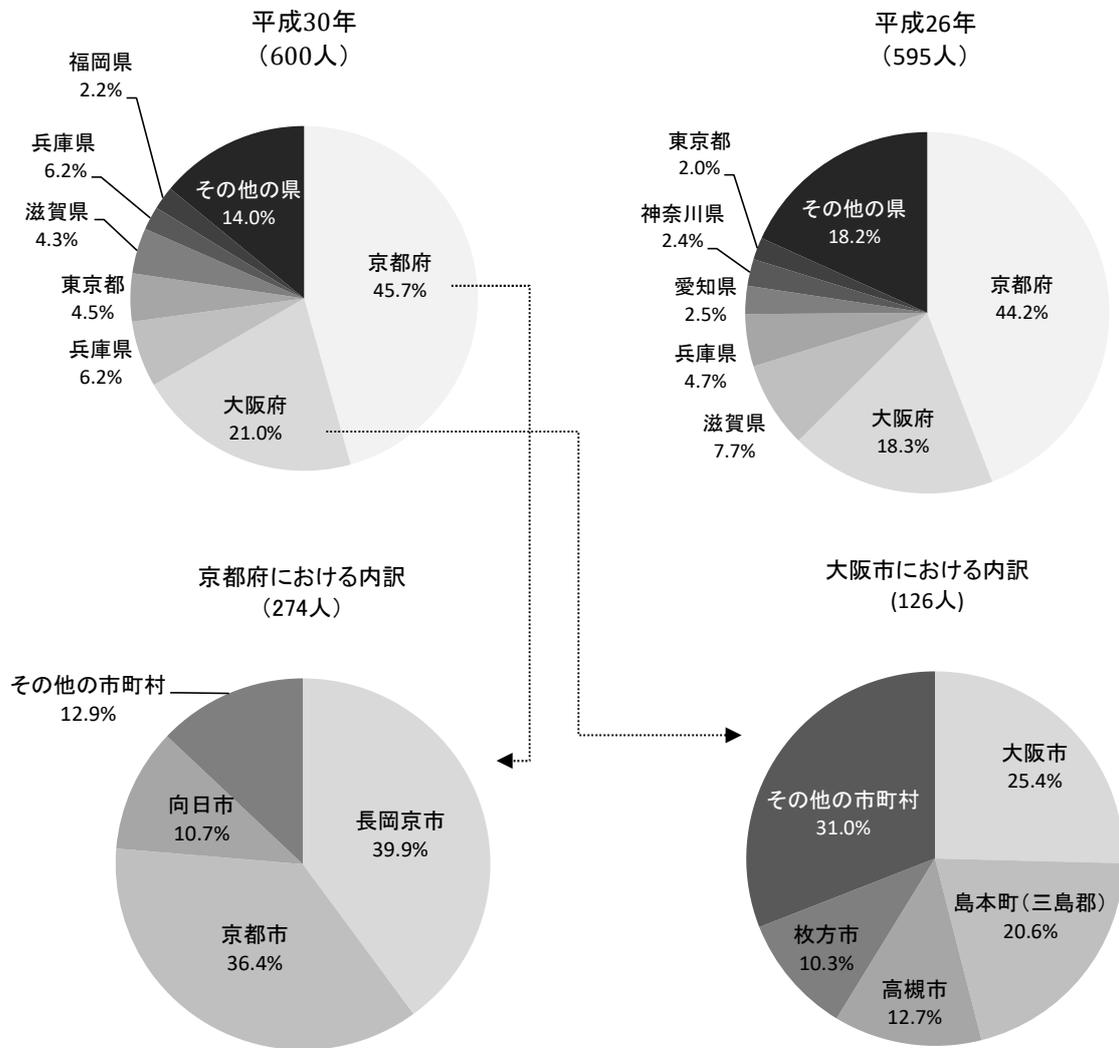
図表17 転入者数



資料：住民基本台帳人口移動報告

本町からの転出者は、京都府、大阪府で約6割～7割を占めている。平成30年（2018年）の転出者において、京都府の内訳では、長岡京市が39.9%で最も多く、京都市が36.4%となっている。大阪府の内訳では、大阪市が25.4%で最も多く、次いで島本町（三島郡）が20.6%、高槻市が12.7%、枚方市が10.3%となっている。

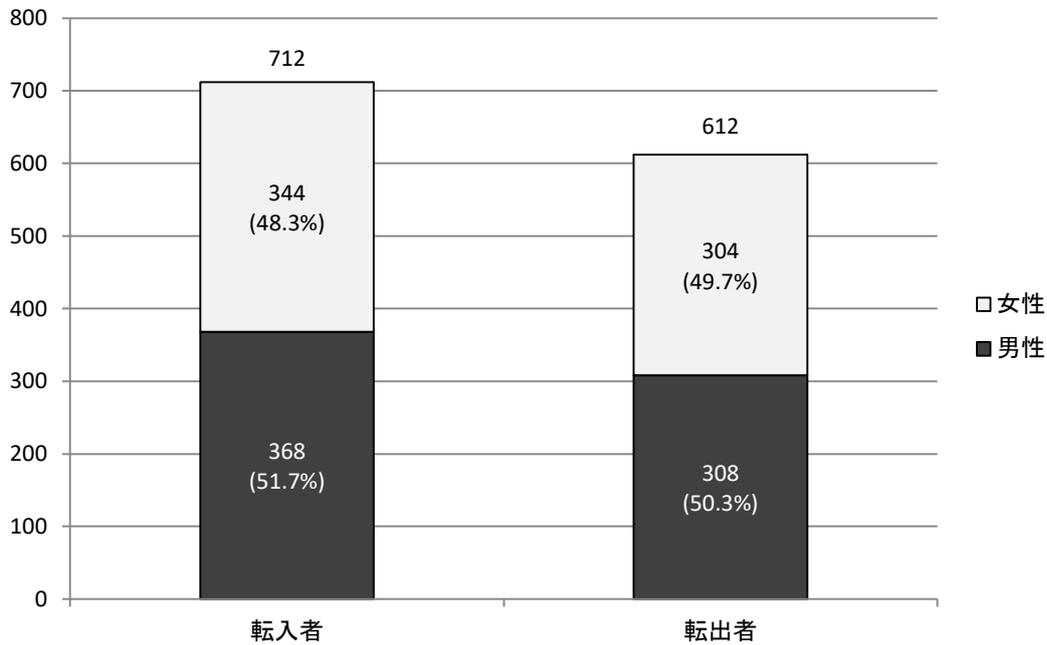
図表18 転出者数



資料：住民基本台帳人口移動報告

男女別に転入者、転出者をみると、転入者、転出者ともに男性が女性をわずかに上回っている。

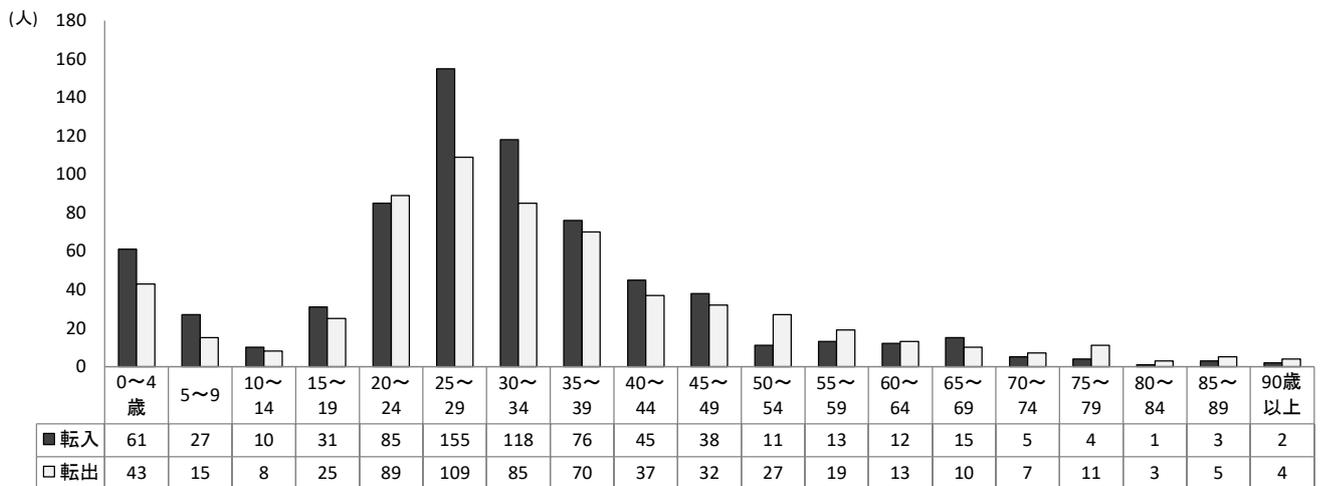
図表 19 男女別転入者・転出者数（平成 30 年）



資料：住民基本台帳人口移動報告

年齢別に転入者、転出者をみると、50歳以上で転出超過がやや目立つものの、0～19歳を含む多くの年代で転入超過、特に25～34歳で大きく転入超過になっている。

図表 20 年齢別転入者・転出者数（平成 30 年）



資料：住民基本台帳人口移動報告

(9) 常住（夜間）人口・昼間人口

平成27年（2015年）国勢調査によると、本町の常住人口（夜間人口）は15,181人、昼間人口は13,110人、昼夜間比86.4%であり、本町は「住むまち」としての特性が現れている。

図表2-1 大山崎町の常住（夜間）人口・昼間人口の推移

(単位:人)

	常住人口 (夜間人口) A	流出口 (通勤・通学による) B	流入人口 (通勤・通学による) C	昼間人口 D=A-B+C	昼夜間比 (常住人口=1) D/A(%)	流出入 超過人口 B-C
平成2年	16,151	6,979	4,786	13,958	86.4%	2,193
平成7年	15,875	7,098	4,174	12,951	81.6%	2,924
平成12年	15,719	6,673	3,991	13,037	82.9%	2,682
平成17年	15,190	5,958	4,414	13,646	89.8%	1,544
平成22年	15,070	5,785	4,000	13,285	88.2%	1,785
平成27年	15,181	5,862	3,791	13,110	86.4%	2,071
京都市	1,475,183	114,542	247,575	1,608,216	109.0%	-133,033
向日市	53,380	19,834	9,342	42,888	80.3%	10,492
長岡京市	80,090	26,342	19,631	73,379	91.6%	6,711
茨木市	280,033	82,738	61,015	258,310	92.2%	21,723
高槻市	351,829	87,488	45,048	309,389	87.9%	42,440
島本町	29,983	11,538	4,345	22,790	76.0%	7,193
大阪市	2,691,185	239,797	1,092,061	3,543,449	131.7%	-852,264

資料：国勢調査

将来人口の推計方法（コーホート変化率法による推計）

本推計では、地方人口ビジョン策定に向けて国が配付している人口推計ワークシート（国勢調査ベース）を活用しながら、独自に平成 25 年（2013 年）以降の人口増加の動向を反映させた独自推計を行う。

推計方法はコーホート変化率法によるものとするが、これは男女別年齢（各歳）別人口集団（コーホート）に対して、出生・死亡・社会移動（転入－転出）の係数を設定し、将来にわたって積み上げ計算を行うことによる推計である。

図表 38 大山崎町の将来人口推計の前提条件（コーホート変化率法）

項目	説明	
推計に用いる人口	基準人口（推計の出発点とする人口）は、平成 27 年（2015 年）10 月 1 日時点の国勢調査人口とする。なお、平成 25 年～平成 31 年各年 9 月末時点の男女別 5 歳階級別（0 歳～100 歳以上）大山崎町住民基本台帳人口（外国人登録を含む）を用いて、人口動向の諸係数を設定する。	
推計期間	第 2 期人口ビジョンの対象期間である、2020 年（令和 2 年）から 2065 年（令和 47 年）までの 5 年ごとの人口（性別年齢（5 歳階級）別人口）を推計する。	
出生率	合計特殊出生率について、以下の 2 つのケースを想定する。 ①大山崎町の現状（国の人口動態保健所・市区町村別統計の最新値：平成 20-24 年）の合計特殊出生率は 1.38 であるが、住民基本台帳による平成 27 年～令和元年の女性子ども比の平均から令和 2 年（2020 年）の合計特殊出生率を設定し、2025 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値を用いる場合。 ②国の長期ビジョンが想定するように合計特殊出生率が段階的に回復する場合。 （なお、母親の年齢別出生率については、設定する合計特殊出生率を、大山崎町の直近の母親の年齢別出生率の実績値の比率で配分することで計算する。）	
生残率 （死亡率）	全国が生残率（性別年齢別）将来値（国立社会保障・人口問題研究所による推計値）を採用する。	
純移動率 （（転入数－転出数）/ 人口）	純移動率について、以下の A 案、B 案の 2 通り、それぞれ 2 つのケースを想定する。	
	<p>【A案】</p> <p>①現状の動向を反映した推移。 大山崎町の住民基本台帳実績より現状値を算出し 2020 年の推計値に反映する。 <u>2025 年以降は社人研推計値を用いる。</u></p> <p>②社会移動がまったくない場合。 2030 年以降 社会移動＝ゼロ</p>	<p>【B案】</p> <p>①現状の動向を反映した推移。 大山崎町の住民基本台帳実績より現状値を算出し 2020 年の推計値に反映する。 <u>2025 年は社人研推計に開発ポテンシャルを反映する。</u> <u>2030 年以降は社人研推計値を用いる。</u></p> <p>②社会移動がまったくない場合。 2030 年以降 社会移動＝ゼロ</p>

推計パターンの設定

出生、社会移動（転入、転出）について、以下のとおりA案、B案の2案それぞれ4パターンを設定して、独自推計を行う。（なお、死亡については、全国的な傾向とほとんど差がないため、国立社会保障・人口問題研究所の将来仮定値を採用している。）

独自推計1は、近年の人口増加の動向を出生率においては2020年に反映し、純移動率においてはA案では2020年だけに反映、B案では2025年まで反映し、その後は社会移動が沈静化し、人口構造が成熟化・高齢化していく推計である。以下の諸前提を可変させる際の基本となる推計である。

独自推計2は、推計1において、純移動率（社会移動）について2030年以降ゼロとする、いわゆる封鎖人口（出生と死亡だけで人口増減が生じる場合の人口）を推計するものである。推計1よりも2030年以降の定住化が促進された場合の目安となる推計である。

独自推計3は、国の長期ビジョンが目標としている将来にわたっての出生率の上昇の傾向を、本町にも当てはめた場合の推計である。純移動率（社会移動）については、推計1と同じ設定である。

独自推計4は、推計3の純移動率（社会移動）を2030年以降ゼロとし、出生率の上昇に加えて、定住化が促進された場合の推計である。

図表39 大山崎町の将来人口の推計パターンの設定

		独自推計1	独自推計2	独自推計3	独自推計4
出生率	（死亡率）	【現状反映】 住民基本台帳実績より現状値を算出し2020年に反映する。 2025年以降は社人研推計値を用いる。	【現状反映】 同左	【出生率上昇】 2025年：1.86 2030年以降： 2.10	【出生率上昇】 同左
		社人研推計値を用いる	同左	同左	同左
純移動率	A案	【現状反映】 住民基本台帳実績より現状値を算出し2020年に反映する。 2025年以降は社人研推計値を用いる。	【社会移動ゼロ】 2030年以降 社会移動＝ゼロ	【現状反映】 推計1に同じ	【社会移動ゼロ】 2030年以降 社会移動＝ゼロ
	B案	【現状反映】 住民基本台帳実績より現状値を算出し2020年に反映する。 2025年は社人研推計に開発ポテンシャルを反映する。 2030年以降は社人研推計値を用いる。	【社会移動ゼロ】 2030年以降 社会移動＝ゼロ	【現状反映】 推計1に同じ	【社会移動ゼロ】 2030年以降 社会移動＝ゼロ

図表 4 0 将来人口の推計における合計特殊出生率の仮定値

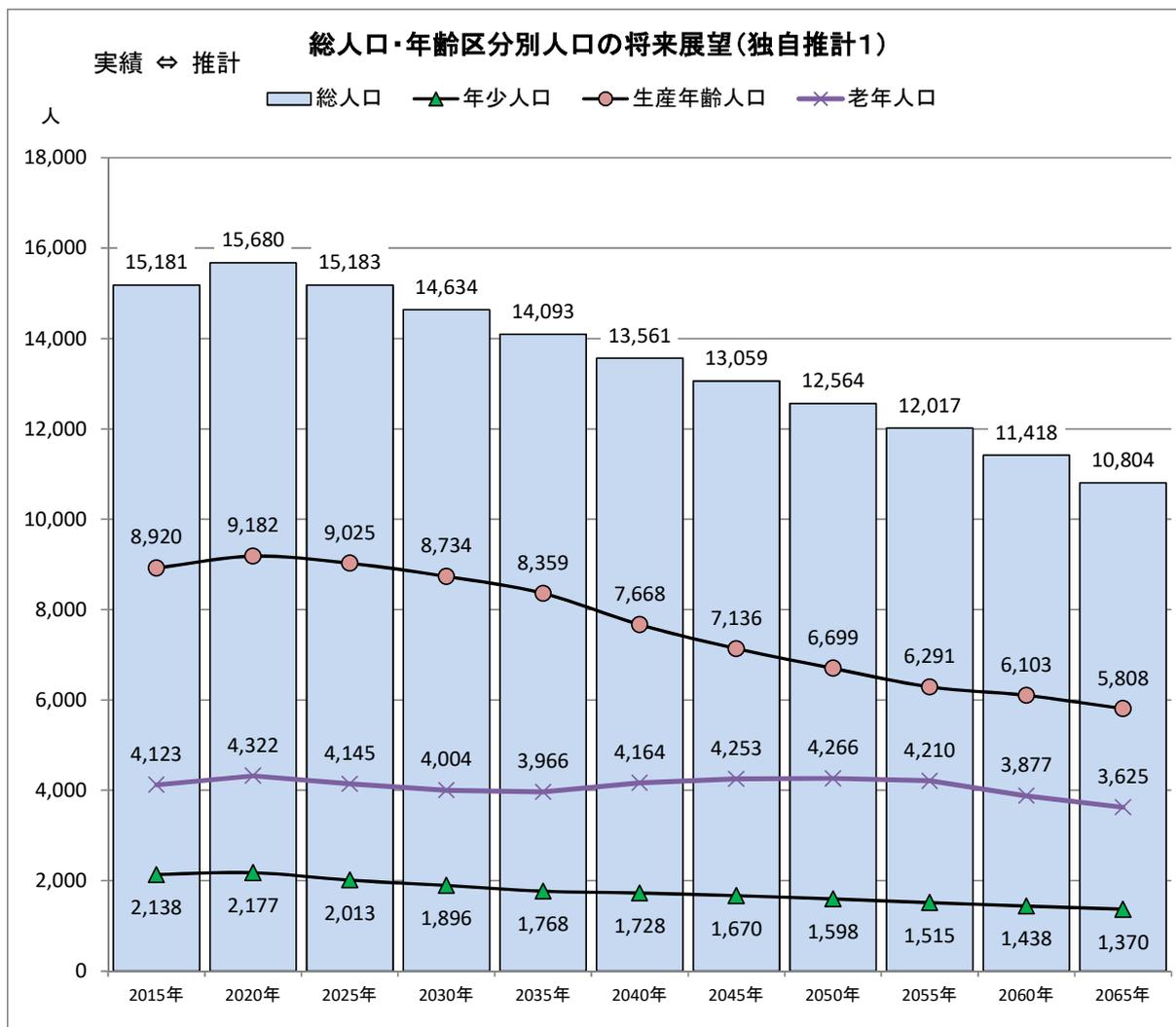
		独自推計1、2	独自推計3、4	社人研仮定値
平成 27 年	2015 年	1.572	1.572	1.380
令和 2 年	2020 年	1.674	1.674	1.595
令和 7 年	2025 年	1.581	1.860	1.581
令和 12 年	2030 年	1.586	2.100	1.586
令和 17 年	2035 年	1.594	2.100	1.594
令和 22 年	2040 年	1.596	2.100	1.596
令和 27 年	2045 年	1.600	2.100	1.600
令和 32 年	2050 年	1.613	2.100	1.613
令和 37 年	2055 年	1.635	2.100	1.635
令和 42 年	2060 年	1.638	2.100	1.638
令和 47 年	2065 年	1.624	2.100	1.624

A案の推計結果と分析

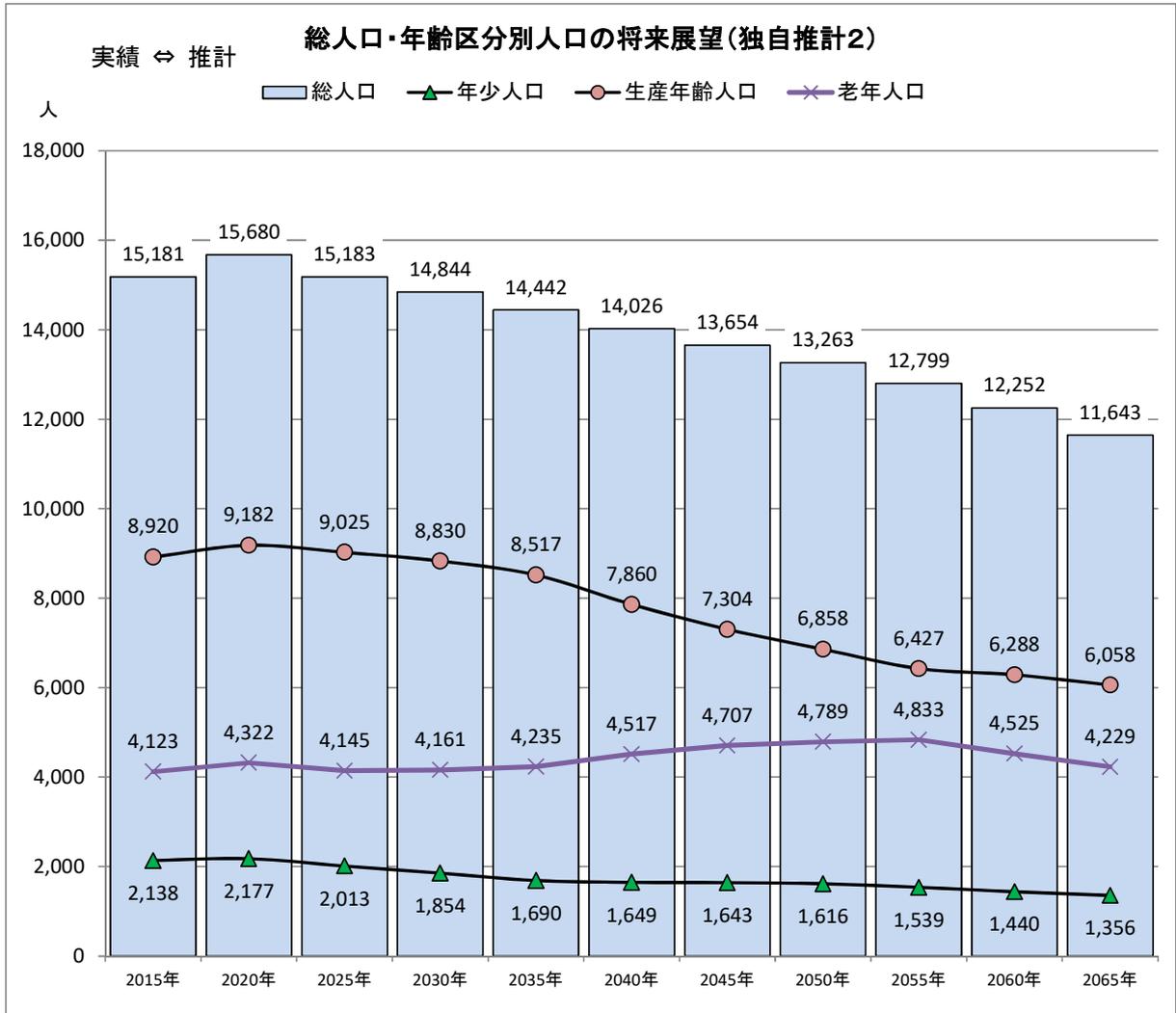
(1) 推計結果

4つの独自推計を行った結果、それぞれ次の通りである。

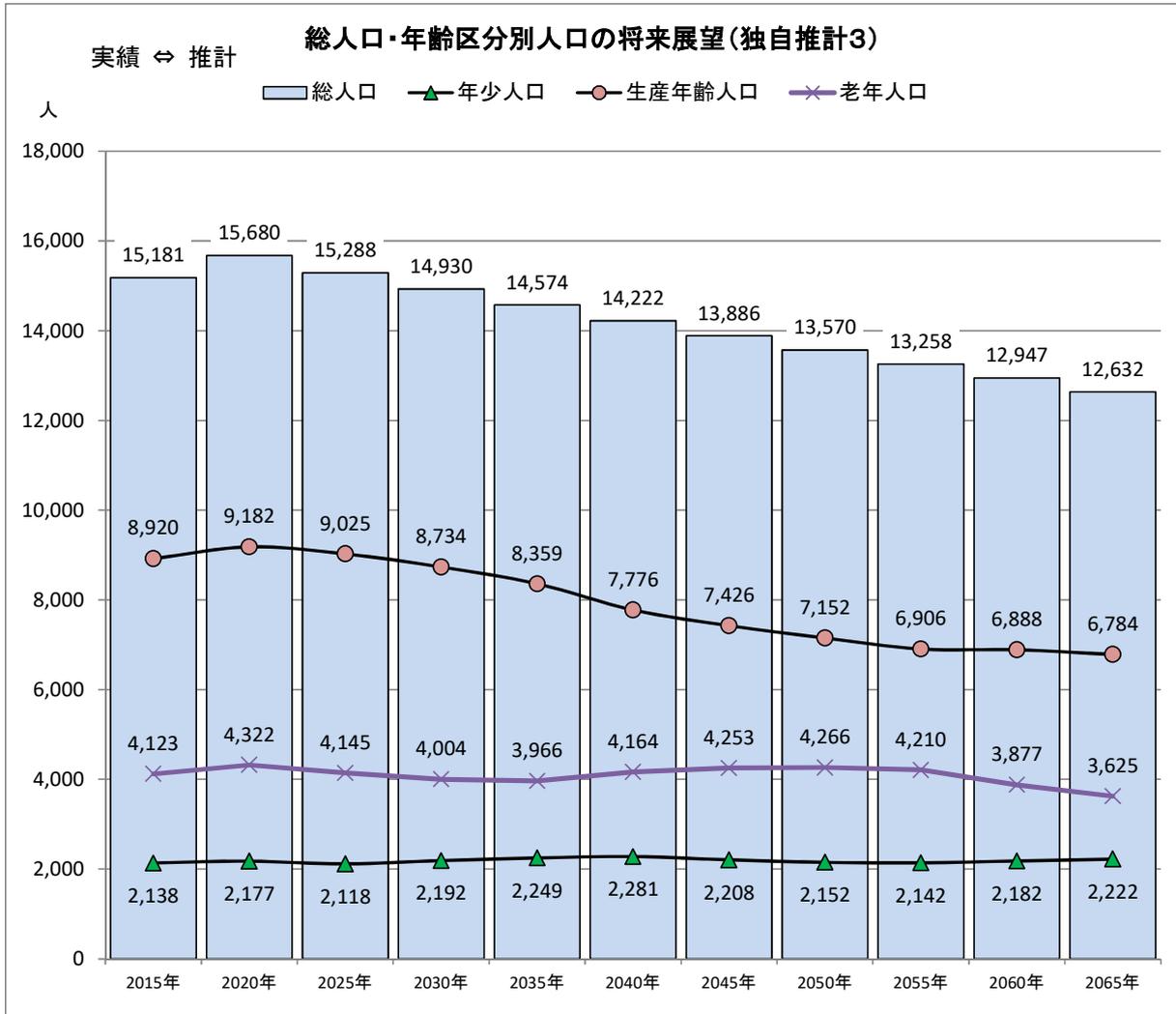
図表 4 1 独自推計 1 の推移



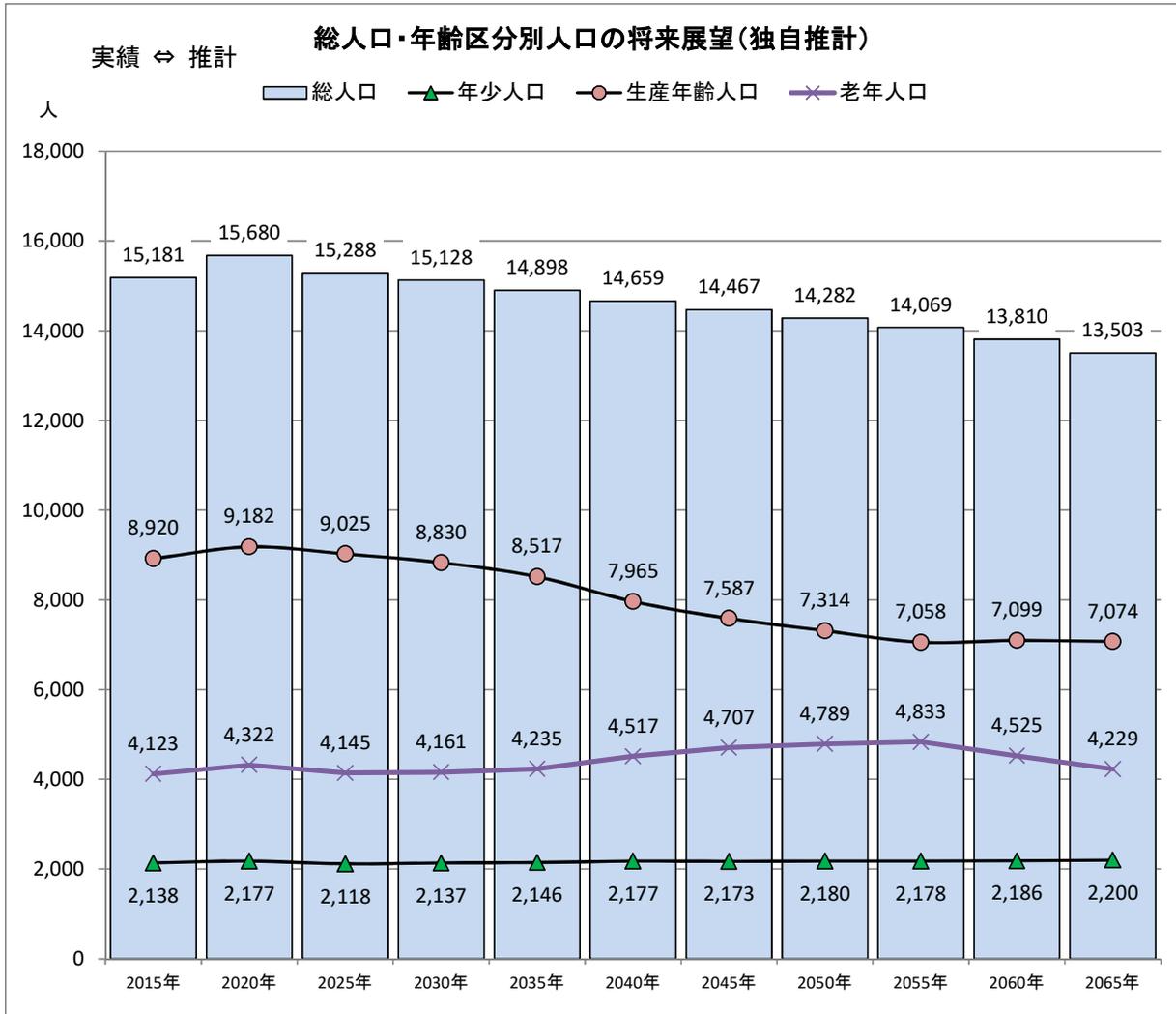
図表 4 2 独自推計 2 の推移



図表 4 3 独自推計 3 の推移



図表 4 4 独自推計 4 の推移



以上の結果をまとめると次の表の通りであり、2065年（令和47年）時点の総人口は、以下の通りである。

独自推計4（13,503人）＞独自推計3（12,632人）＞独自推計2（11,643人）＞独自推計1（10,804人）

また、2060年（令和42年）時点の総人口は、以下の通りである。

独自推計4（13,810人）＞独自推計3（12,947人）＞独自推計2（12,252人）＞独自推計1（11,418人）

なお、第1期大山崎町人口ビジョンにおける2060年の人口の将来展望では2060年で12,794人（推計4）と設定していた。

図表45 大山崎町の将来人口の独自推計1・2・3・4のまとめ

推計パターン	区分	平成27年 2015年	令和2年 2020年	令和7年 2025年	令和12年 2030年	令和17年 2035年	令和22年 2040年	令和27年 2045年	令和32年 2050年	令和37年 2055年	令和42年 2060年	令和47年 2065年
独自推計1	総人口	15,181	15,680	15,183	14,634	14,093	13,561	13,059	12,564	12,017	11,418	10,804
	年少人口	2,138	2,177	2,013	1,896	1,768	1,728	1,670	1,598	1,515	1,438	1,370
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,025	8,734	8,359	7,668	7,136	6,699	6,291	6,103	5,808
	老年人口	4,123	4,322	4,145	4,004	3,966	4,164	4,253	4,266	4,210	3,877	3,625
	年少人口割合	14.1%	13.9%	13.3%	13.0%	12.5%	12.7%	12.8%	12.7%	12.6%	12.6%	12.7%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.4%	59.7%	59.3%	56.5%	54.6%	53.3%	52.4%	53.4%	53.8%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.3%	27.4%	28.1%	30.7%	32.6%	34.0%	35.0%	34.0%	33.6%
独自推計2	総人口	15,181	15,680	15,183	14,844	14,442	14,026	13,654	13,263	12,799	12,252	11,643
	年少人口	2,138	2,177	2,013	1,854	1,690	1,649	1,643	1,616	1,539	1,440	1,356
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,025	8,830	8,517	7,860	7,304	6,858	6,427	6,288	6,058
	老年人口	4,123	4,322	4,145	4,161	4,235	4,517	4,707	4,789	4,833	4,525	4,229
	年少人口割合	14.1%	13.9%	13.3%	12.5%	11.7%	11.8%	12.0%	12.2%	12.0%	11.8%	11.6%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.4%	59.5%	59.0%	56.0%	53.5%	51.7%	50.2%	51.3%	52.0%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.3%	28.0%	29.3%	32.2%	34.5%	36.1%	37.8%	36.9%	36.3%
独自推計3	総人口	15,181	15,680	15,288	14,930	14,574	14,222	13,886	13,570	13,258	12,947	12,632
	年少人口	2,138	2,177	2,118	2,192	2,249	2,281	2,208	2,152	2,142	2,182	2,222
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,025	8,734	8,359	7,776	7,426	7,152	6,906	6,888	6,784
	老年人口	4,123	4,322	4,145	4,004	3,966	4,164	4,253	4,266	4,210	3,877	3,625
	年少人口割合	14.1%	13.9%	13.9%	14.7%	15.4%	16.0%	15.9%	15.9%	16.2%	16.9%	17.6%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.0%	58.5%	57.4%	54.7%	53.5%	52.7%	52.1%	53.2%	53.7%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.1%	26.8%	27.2%	29.3%	30.6%	31.4%	31.8%	29.9%	28.7%
独自推計4	総人口	15,181	15,680	15,288	15,128	14,898	14,659	14,467	14,282	14,069	13,810	13,503
	年少人口	2,138	2,177	2,118	2,137	2,146	2,177	2,173	2,180	2,178	2,186	2,200
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,025	8,830	8,517	7,965	7,587	7,314	7,058	7,099	7,074
	老年人口	4,123	4,322	4,145	4,161	4,235	4,517	4,707	4,789	4,833	4,525	4,229
	年少人口割合	14.1%	13.9%	13.9%	14.1%	14.4%	14.8%	15.0%	15.3%	15.5%	15.8%	16.3%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.0%	58.4%	57.2%	54.3%	52.4%	51.2%	50.2%	51.4%	52.4%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.1%	27.5%	28.4%	30.8%	32.5%	33.5%	34.4%	32.8%	31.3%

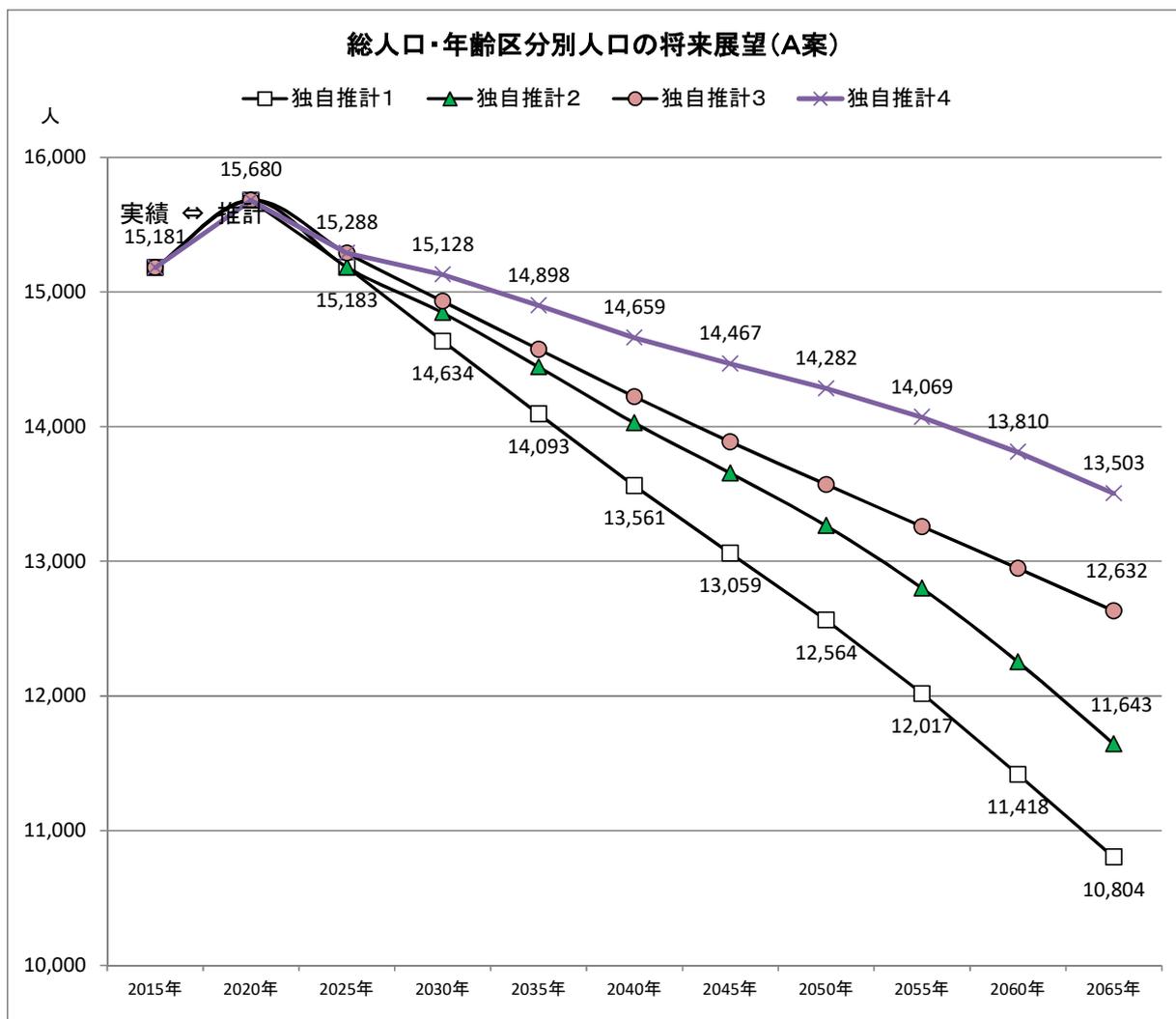
(2) 推計結果の分析

独自推計1と独自推計2の差は、2030年以降の社会移動の想定によるものである。独自推計1では、開発に伴う人口増加は2020年でピークを迎え、その後は開発以前の転出超過傾向に戻る。独自推計2では2030以降も転出超過とならず定住化が促進されるものの、高齢化率がやや高くなる。

独自推計1と独自推計3の差は、2025年以降の出生率の想定によるものである。独自推計1では2020年における出生率1.674をピークとして2025年以降いったん低下し、その後ゆるやかに上昇し2060年に1.638に達するとの想定であるが、独自推計3では2025年以降も2020年の出生率上昇を契機に上昇を続け、2030年以降人口維持の水準とされる2.1に達すると想定している。このため、2025年以降年少人口が増加し高齢化率は2055年の31.8%を上限としてあまり上昇しない。

独自推計3と独自推計4の差は、2030年以降の社会移動の想定によるものである。独自推計3に比べ、独自推計4では2030以降も転出超過とならず定住化が促進されるものの、高齢化のピークは独自推計3より若干高く2055年の34.4%となる。

図表4.6 大山崎町の将来人口の独自推計1・2・3・4のまとめ

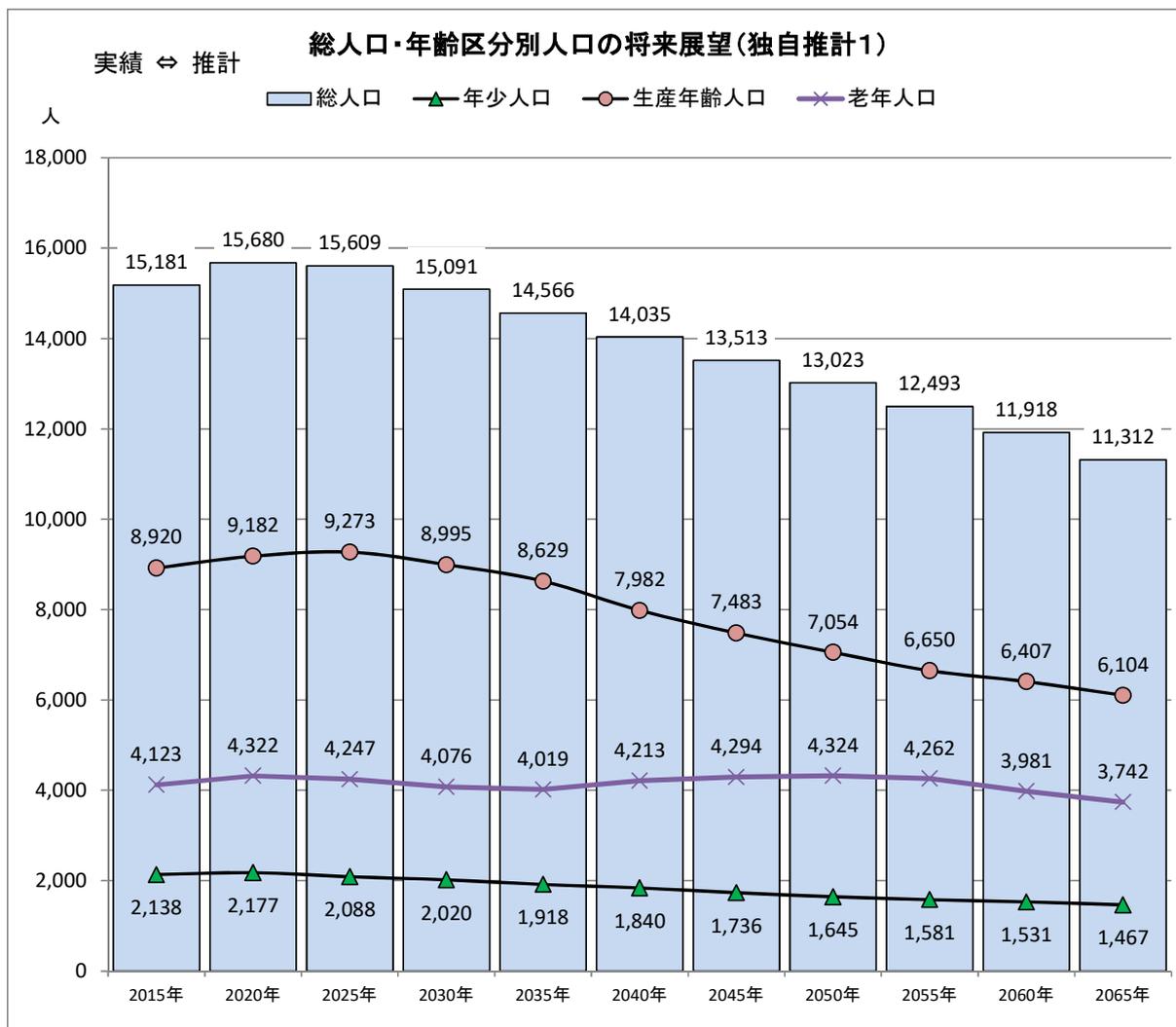


B案の推計結果と分析

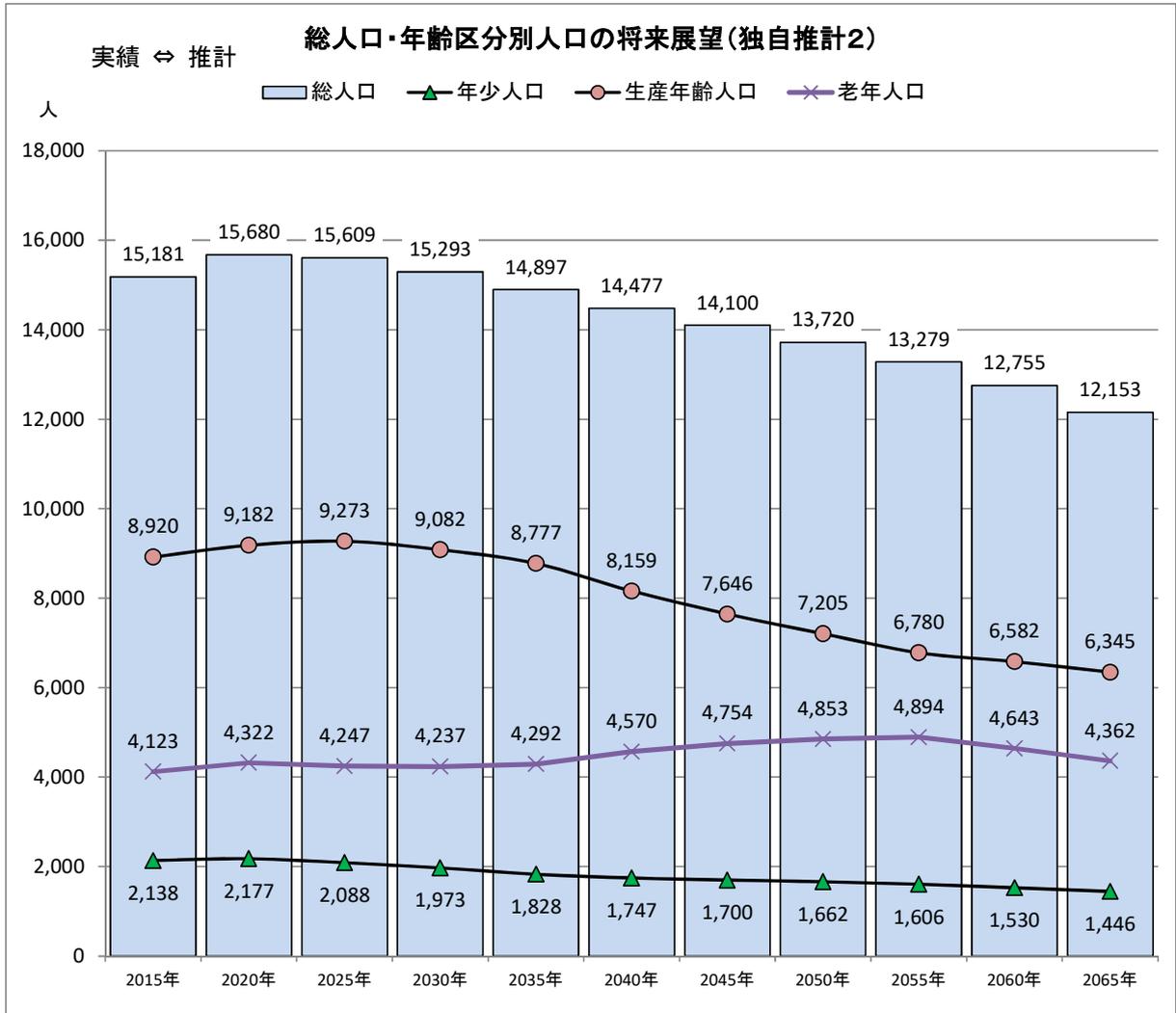
(1) 推計結果

4つの独自推計を行った結果、それぞれ次の通りである。

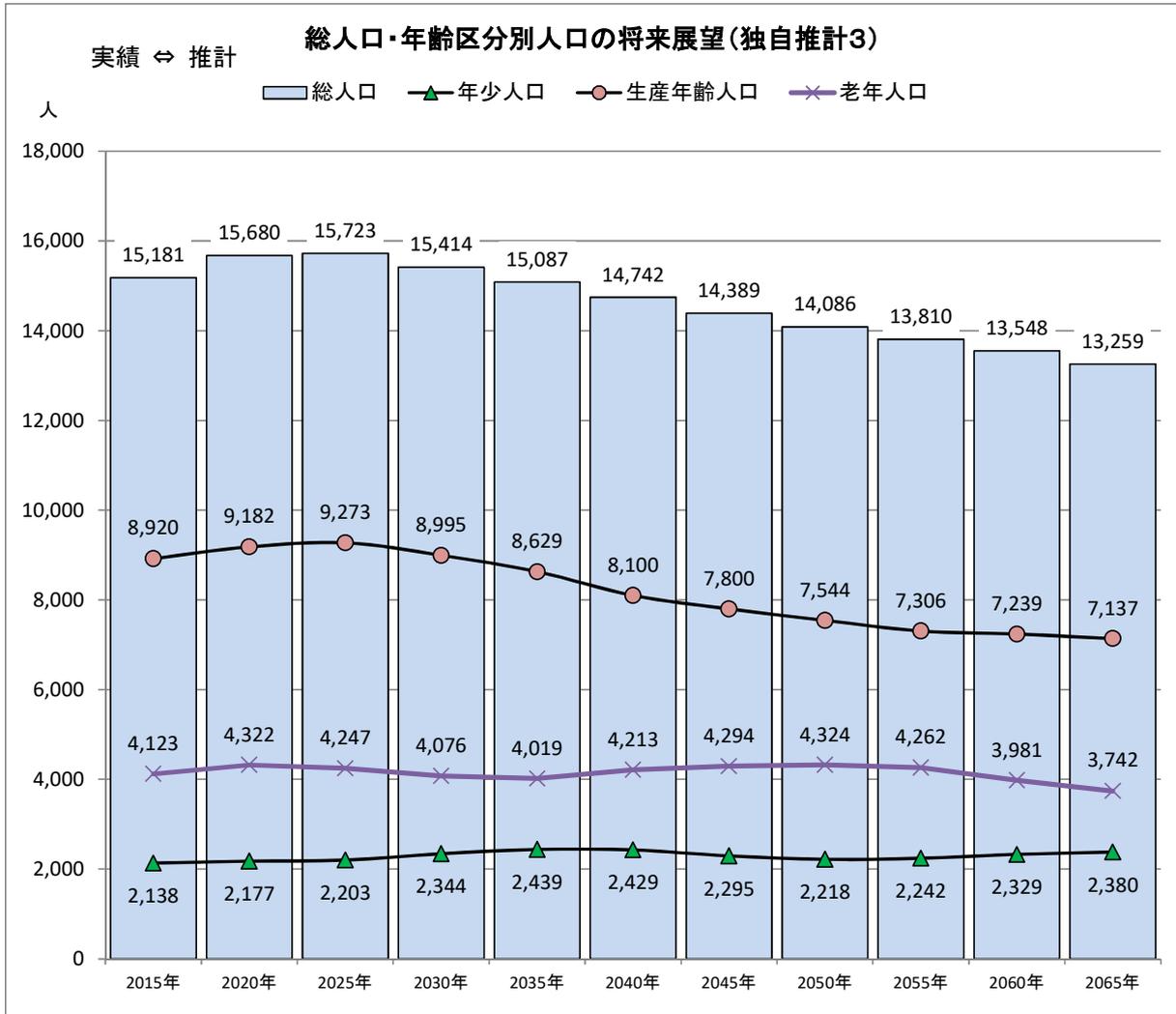
図表47 独自推計1の推移



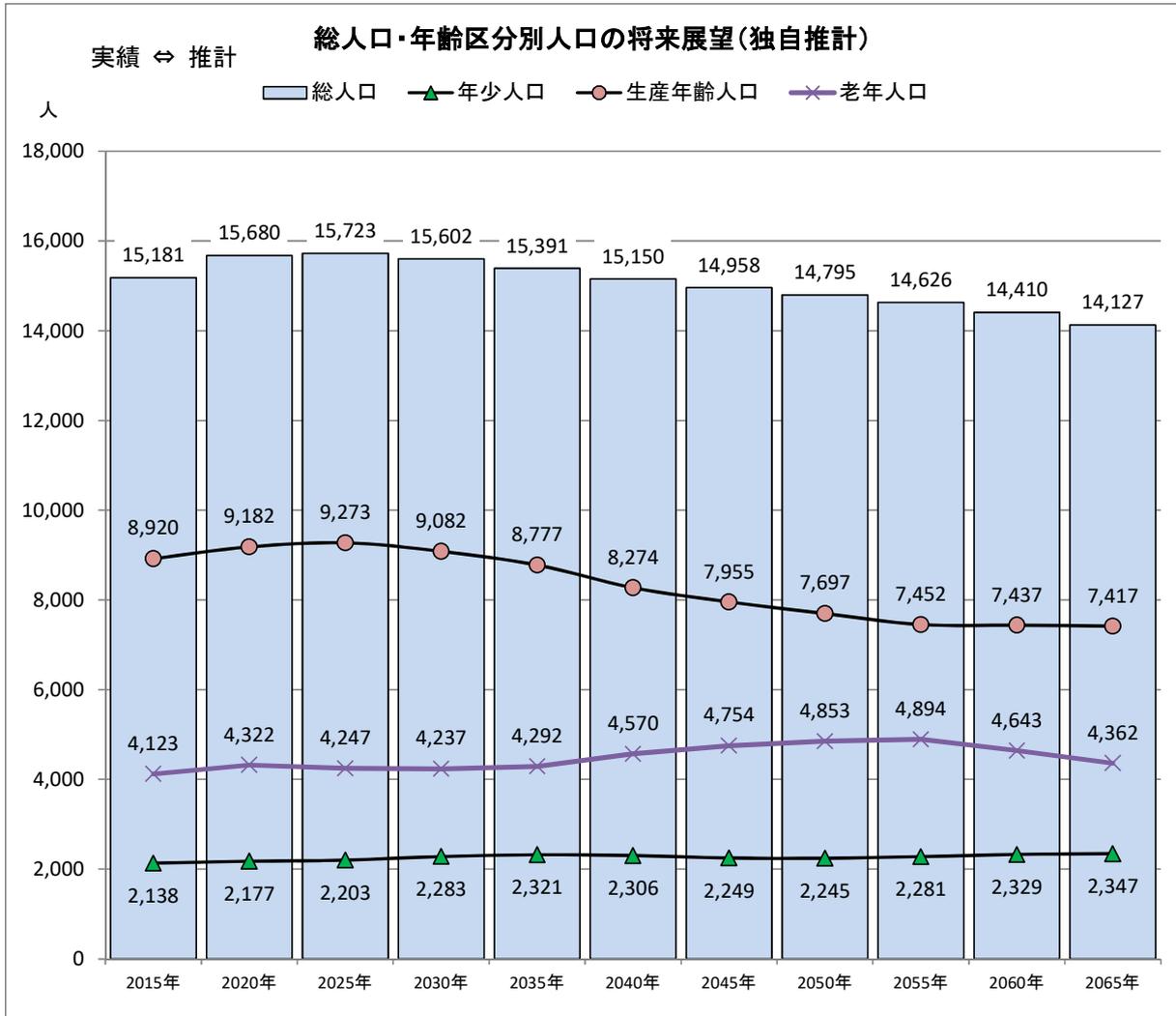
図表 4 8 独自推計 2 の推移



図表 4 9 独自推計 3 の推移



図表50 独自推計4の推移



以上の結果をまとめると次の表の通りであり、2065年（令和47年）時点の総人口は、以下の通りである。

独自推計4（14,127人）＞独自推計3（13,259人）＞独自推計2（12,153人）＞独自推計1（11,312人）

また、2060年（令和42年）時点の総人口は、以下の通りである。

独自推計4（14,410人）＞独自推計3（13,548人）＞独自推計2（12,755人）＞独自推計1（11,918人）

なお、第1期大山崎町人口ビジョンにおける2060年の人口の将来展望では2060年で12,794人（推計4）と設定していた。

図表5-1 大山崎町の将来人口の独自推計1・2・3・4のまとめ

推計パターン	区分	平成27年 2015年	令和2年 2020年	令和7年 2025年	令和12年 2030年	令和17年 2035年	令和22年 2040年	令和27年 2045年	令和32年 2050年	令和37年 2055年	令和42年 2060年	令和47年 2065年
独自推計1	総人口	15,181	15,680	15,609	15,091	14,566	14,035	13,513	13,023	12,493	11,918	11,312
	年少人口	2,138	2,177	2,088	2,020	1,918	1,840	1,736	1,645	1,581	1,531	1,467
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,273	8,995	8,629	7,982	7,483	7,054	6,650	6,407	6,104
	老年人口	4,123	4,322	4,247	4,076	4,019	4,213	4,294	4,324	4,262	3,981	3,742
	年少人口割合	14.1%	13.9%	13.4%	13.4%	13.2%	13.1%	12.8%	12.6%	12.7%	12.8%	13.0%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.4%	59.6%	59.2%	56.9%	55.4%	54.2%	53.2%	53.8%	54.0%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.2%	27.0%	27.6%	30.0%	31.8%	33.2%	34.1%	33.4%	33.1%
独自推計2	総人口	15,181	15,680	15,609	15,293	14,897	14,477	14,100	13,720	13,279	12,755	12,153
	年少人口	2,138	2,177	2,088	1,973	1,828	1,747	1,700	1,662	1,606	1,530	1,446
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,273	9,082	8,777	8,159	7,646	7,205	6,780	6,582	6,345
	老年人口	4,123	4,322	4,247	4,237	4,292	4,570	4,754	4,853	4,894	4,643	4,362
	年少人口割合	14.1%	13.9%	13.4%	12.9%	12.3%	12.1%	12.1%	12.1%	12.1%	12.0%	11.9%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.4%	59.4%	58.9%	56.4%	54.2%	52.5%	51.1%	51.6%	52.2%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.2%	27.7%	28.8%	31.6%	33.7%	35.4%	36.9%	36.4%	35.9%
独自推計3	総人口	15,181	15,680	15,723	15,414	15,087	14,742	14,389	14,086	13,810	13,548	13,259
	年少人口	2,138	2,177	2,203	2,344	2,439	2,429	2,295	2,218	2,242	2,329	2,380
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,273	8,995	8,629	8,100	7,800	7,544	7,306	7,239	7,137
	老年人口	4,123	4,322	4,247	4,076	4,019	4,213	4,294	4,324	4,262	3,981	3,742
	年少人口割合	14.1%	13.9%	14.0%	15.2%	16.2%	16.5%	16.0%	15.7%	16.2%	17.2%	18.0%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.0%	58.4%	57.2%	54.9%	54.2%	53.6%	52.9%	53.4%	53.8%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.0%	26.4%	26.6%	28.6%	29.8%	30.7%	30.9%	29.4%	28.2%
独自推計4	総人口	15,181	15,680	15,723	15,602	15,391	15,150	14,958	14,795	14,626	14,410	14,127
	年少人口	2,138	2,177	2,203	2,283	2,321	2,306	2,249	2,245	2,281	2,329	2,347
	生産年齢人口	8,920	9,182	9,273	9,082	8,777	8,274	7,955	7,697	7,452	7,437	7,417
	老年人口	4,123	4,322	4,247	4,237	4,292	4,570	4,754	4,853	4,894	4,643	4,362
	年少人口割合	14.1%	13.9%	14.0%	14.6%	15.1%	15.2%	15.0%	15.2%	15.6%	16.2%	16.6%
	生産年齢人口割合	58.8%	58.6%	59.0%	58.2%	57.0%	54.6%	53.2%	52.0%	50.9%	51.6%	52.5%
	老年人口割合	27.2%	27.6%	27.0%	27.2%	27.9%	30.2%	31.8%	32.8%	33.5%	32.2%	30.9%

(2) 推計結果の分析

A案との違いは、近年の開発に伴う人口増加傾向が2020年以降鈍化しつつも2025年まで続くと想定することによる。

独自推計1と独自推計2の差は、2030年以降の社会移動の想定によるものである。独自推計1では、開発に伴う人口増加が2025年でピークを迎え、その後は開発以前の転出超過傾向に戻る。独自推計2では2030以降も転出超過とならず定住化が促進されるものの、高齢化率がやや高くなる。

独自推計1と独自推計3の差は、2025年以降の出生率の想定によるものである。独自推計1では2020年における出生率1.674をピークとして2025年以降いったん低下し、その後ゆるやかに上昇し2060年に1.638に達するとの想定であるが、独自推計3では2025年以降も2020年の出生率上昇を契機に上昇を続け、2030年以降人口維持の水準とされる2.1に達すると想定している。このため、2025年以降年少人口が増加し高齢化率は2055年の30.9%を上限としてあまり上昇しない。

独自推計3と独自推計4の差は、2030年以降の社会移動の想定によるものである。独自推計3に比べ、独自推計4では2030以降も転出超過とならず定住化が促進されるものの、高齢化のピークは独自推計3より若干高く2055年の33.5%となる。

図表5-2 大山崎町の将来人口の独自推計1・2・3・4のまとめ

